

ばんけい

教育ほつとにゅーず
かわら版こ みち
教育の小径 No.113
2018 March
3月号国士舘大学教授
北 俊夫先生

今月のことば

きゆう つう
窮すれば通ず

事態が行き詰まって、
にっちもさっちも行か
ず、どうにもならない
ところまで来てしま
うと、意外と活路が見
だされて何とかなるこ
とをいいます。

授業は対話型だけでよいか

- 友だちや教師など対話型の学びだけでなく、協働的な学びを工夫することによって、子どもたちの学びがさらに深まりのあるものになります。
- 協働的で創造的な学びをとおして、将来、社会人として必要となるさまざまな資質・能力を身につけることができます。

学校ならではの学びを

いま、授業において深い学びを実現するために対話的な学びを展開することが課題になっています。対話とは文字どおりとらえると、一対一の関係で話したり聞いたりすることです。類語に会話という言葉があります。

授業で対話する対象は友だちであり教師です。教科によっては地域の人たちも対象になります。教材や題材に登場する人物と対話しながら学習を進めていくこともあります。このように、対話する対象はさまざまな人たちを想定できます。

授業を参観しながら子どもたちの発言の仕方を聞いてみると、多くの子どもは教師に向かって発言していることに気づきます。教師との対話です。ほかの子どもたちは教師に話していることを聞いているのです。子どもたちの机が教師のいる前方に向かって配置されている場合には、子どもたちと教師が対面する関係になりますからやむを得ないことです。

ところが、子どもたちが学級全体の友だちに向かって発言し合っている学級があります。聞いている子どもたちは一斉に発言者に顔を向けています。これは友だちと対話する関係です。

調べたことやまとめたことなどを教室の前で説明、報告、発表したりする場合、子どもたちは対面関係になります。机がカタカナのコの字や口の字に配置されていると、顔を見て話したり、聞いたりすることが日常的にしやすいです。

多くの友だちとともに学ぶことは、家庭や学習塾では経験できません。学校でこそできる貴重な体験です。子どもたちには、担任だけでなく、さまざまな友だちと関わりながら学んでいくという、学校ならではの経験や体験をこれからも味わわせたいものです。

なぜ協働的な学びが必要なのか

子どもたちの発言の仕方を聞いていて気になることの一つに、子ども同士が発言し合う、聞き合うなど相互に伝え合う関係で終わっていることがあります。これは対話型の学びの限界なのかもしれません。

互いの考えなどを聞き合うことによって、自らの考えなどを高めることができます。こうした学びは個の確立を図る観点から捉えるとき、まったく意味がないことではありません。

教室には多様な子どもたちが在籍しています。学級には社会科の得意な子どももいれば、知識や体験の豊富な子

どももいます。ユニークな考え方をする子どももいます。多様な子どもたちが構成されているのが学級です。そのため、これまでも学級は「小さな社会」と言われてきました。

こうした学級の利点を生かした、いま一つ重視したい学びは、協働的な学びです。これは対話的な学びの発展型だといえます。

平たく定義づけると、協働的な学びとは、多様な子どもたちがそれぞれの持ち味や得意分野を発揮し、一つの目的に向かってみんなと協力し合いながら、よりよい結果を生み出していく学びのスタイルのことです。

これは自分の考えを表明したり、相互に伝え合ったりして終わらせるではありません。みんなで多様な意見を出し合い、それらの違いを認め合い、不十分なところを補い合いながら、みんなでよりよい考えを生み出していくことです。これは協働的で創造的な営みであり、学級という集団で思考したり活動したりする営みです。

こうした活動をとおして、多様な意見を調整する能力やよりよいものを創り出そうとする態度、違いを認め合うことの大切さ、弱者に対して支えようとする思いやりの心など、将来、社会人として社会生活を営もうえで必要となる資質・能力を身につけます。

今月の記念日

さくらの日
(3月27日)

日本さくらの会が平成4年(1992年)に制定しました。3(さ)と9(く)を掛けると27になる語呂合わせです。この頃から、全国ほぼさくらの季節になります。

転校生が入ってきたとき

転校生が入ってきました。担任としてどのように迎えたらよいのでしょうか。また、当該の子どもや学級の子どもたちにはどのように指導したらよいのでしょうか。

転校生が入ってきた時期によっても指導のポイントは変わります。ここでは年度の途中を想定して考えます。

まずは、転校生に対する関わり方です。転校生は多くの場合、不安を感じていることが一般的ですから、子どもたちに紹介する前に、転校生やその保護者と話す機会を設けます。

何より重要なことは、担任の受け入れ体制はもとより、学級全体で温かく迎えることを伝えることです。当該の子どもや保護者の不安を取り除くことを第一義に考えます。もし保護者から転校の理由を聞くことができれば、その後に指導に生かすこともできます。この時点では、プライバシーにはあまり立ち入らないようにします。

受け入れる子どもたちに対する指導も欠かせません。すでに転校生が在籍している場合にはそのときの気持ちを表明させたり、転校生の立場で不安な気持ちを想像させたりします。何より重要なことはみんなで温かく迎えようという雰囲気を醸成することです。

転校生の保護者にも呼びかけ、子どもたちが歓迎の行事を計画するのよいでしょう。保護者の不安を払拭することもできます。担任は当分の間、転校生に対していじめなどの問題行動が見られないか。子どもたちの人間関係をつぶさに観察し続けます。保護者にはその都度学級での様子を連絡します。

教育の動向

OECDのPISA調査

経済協力開発機構（OECD）は昨年11月に、2015年に実施した学習到達度調査（PISA）の結果を公表しました。調査に参加したのは52の国や地域で、日本は198校の高校などの約6600人が参加しました。

今回初めて調査した「協同問題解決能力」の結果が、日本は52カ国中、シンガポールに次いで、2位でした。

「協同問題解決能力」とは「相手と協同して問題を解決するための能力」のことです。これまで学校で取り組んできた学び合い活動、グループワーク、問題解決的な学習などの成果によるものと思われま

す。

先に公表されている結果では、日本は「読解力」が8位、「数学的リテラシー」が5位、「科学的リテラシー」が2位でした。これらの能力と協同問題解決能力との間には一定の相関関係がみられたとい

います。今回実施した質問紙調査によると、「共同作業だと、自分の力が発揮できる」という質問に対する肯定的な回答は、OECDの平均が68.2%に対して、日本は53.3%でした。また「チームの方が、1人よりいい決定をすると思う」には、日本が80.2%、OECDが72.0%でした。2つの結果から、共同作業では自分の力が発揮できないと感じつつも、その価値を認めている生徒が多いよう

シリーズ 新学習指導要領のキョウブツト解説 その5

見方・考え方

「見方・考え方」が教科等の目標に共通に位置づけられています。

列記すると、「言葉による見方・考え方」（国語）、「社会的な見方・考え方」（社会）、「数学的な見方・考え方」（算数）、「理科の見方・考え方」（理科）、「身近な生活に関わる見方・考え方」（生活）、「音楽的な見方・考え方」（音楽）、「造形的な見方・考え方」（図画工作）、「生活の営みに係る見方・考え方」（家庭）、「体育や保健の見方・考え方」（体育）、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」（外国語）、「探究的な見方・考え方」（総合的な学習の時間）、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」（特別活動）のように示されています。

表記の仕方は教科等によって違っており、必ずしも統一性はありません。今後、『解説』などで各教科等に即して「見方・考え方」の捉え方や意味することを確認する必要があります。

「見方・考え方」の語尾には、生活科を除いて「～を働かせて」とあります。これは「見方・考え方」を身につけることが目的ではなく、各教科等の目標や内容を効果的に実現させるための手段であることを意味しています。いわば道具をもたせ、その道具を使うことによって、深まりのある学びが期待されるというわけです。

一般にも「ものの見方・考え方」などと言われます。「見方・考え方」は単に学習のレベルで求められているだけでなく、社会生活を主体的、創造的に営んでいくためにも必要となる、生き方につながる道具でもあります。

INFORMATION

ばんけいの選べるテスト!



見られ
ます!
HP
から
図書
教材
が
WEB
カタログ
は
コチラ!

編集後記

この一年を振り返るとできなかった事など反省点がいろいろ浮かびます。振り返りを記録し、来年度に向けてしっかりと目標を立てていきたいと思

ばんけい
企画・編集：ばんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2018年3月1日